

天理時報

TENRI
JIHO

発行所

天理教道友社

〒632-8686 奈良県天理市三島町1番地1
電話 (0743)63-3726
郵便振替口座00900-7-10367番

[本紙定価]: 1部60円 1年(送料共): 4,560円
半年(送料共): 2,280円



今号電子版は
ココから!

立教184年
令和3年/2021年

6月27日

- 特別企画「木の温もり、でお迎え」営繕課大工班・木工班 …… 2面
- 新企画「句景さんぽ——OYASATO風物詩」 …… 3面
- 東京五輪ホッケー日本代表に 天理勢23人が選出 …… 4・5面
- ヒューマン「76歳 毎日山歩、でご守護味わう」 …… 6・7面
- 天理スポーツ「天理高軟式野球部」／連載小説「ふたり」 …… 8面



梅雨晴れの空のもと、恒例の本部「田植え」が行われた(23日、杣之内農場で)

連綿といまに 受け継がれる 親里の風物詩 本部「田植え」

恒例の本部「田植え」は23日、天理高校農事部の杣之内農場で行われた。

この行事は、「おふでさき」などの原典に見られる、農事にたとえて説かれた教理の内容を、実際に体験して深く味わおうとされた中山正善・二代真柱様の思いから始まったもの。昭和12年から80年以上にわたり今日まで連綿と受け継がれてきた、初夏の親里の風物詩となっている。

当日は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐうえから、田植えをする際に一定間隔を空けるなどの対策が講じられた。

◇ ◇ ◇

午前10時ごろ、真柱様ご家族が到着。真柱様、大亮様の長女・まさえ様と次女・しずく様が、水田近くからご覧になるなか、はるえ様と大亮様ご夫妻は、本部在籍者、天理高職員、農事部の生徒ら約160人と共に素足で水田に入られた。

梅雨の「中休み」の晴れ間が広がるなか、苗の束を手で一列に並んだ一同は、農事部関係者の「どうぞ」という掛け声を合図に、筋縄に結わえた目印に沿って、3本ずつ丁寧に植えつけていく。泥に足を取られぬよう、ゆっくりと後ずさりしながら、30分ほどかけて約4万3千本の苗を約15坪の田に植えていった。

この苗は、4月16日の「はえでづとめ」で、かんろだいに供えられた種もみから育てたもの。

これから秋の収穫まで、農事部の生徒たちが除草や水量調節などをしてながら丹精する。

別画

特企

“木の温もり”でお迎え

大工班

宮繕課

木工班

本部神殿をはじめとする神苑一帯では現在、帰参者の便宜を図るうえで、さまざまな整備が進められている。先ごろ、新型コロナウイルス感染症拡大を防止する対策の一環として、木製の足踏み式消毒スタンドが神殿などに新たに設置された。また、殿内の各所に据え置かれたいすも、高齢者や身の上者ら多くの参拝者に利用されている。これらを製作したのは、宮繕部宮繕課大工班および木工班の勤務者と天理高校第2部のひのきしん生たち。本部施設の木工事に携わる「縁の下の力持ち」の伏せ込みの日々を取材した。

木製の足踏み式消毒スタンドお目見え

木製の足踏み式消毒スタンドは、神殿各礼拝場の正面階段下など8カ所に設置された。直接スプレーに触れる手押し式よりも安全に消毒できることから、多くの帰参者に利用されている。材料には、蛇谷山（奈良県御杖村）のスギの間伐材を使用。節目のない部分を選び、殿内の建材になじむよう着色するなど、「木の温もり」が感じられる工夫がなされている。

この木製スタンドは、宮繕課大工班が作った。天理市永原町の永原倉庫内に事務所兼作業場を構える同班は、日ごろ本部住宅の修繕、管内施設の設備



(上) 殿内用いすは5年前に設置されて以来、多くの参拝者に利用されている
(右) 下足場のいすは、立ち上がりを補助する持ち手のほか、杖置きも備える
(左) 神殿になじむよう工夫された木製の足踏み式消毒スタンド

工事に従事しており、先ごろリニューアルオープンしたお茶所や豊田山舎の階段の改修なども手掛けた。

現在、勤務者およびひのきしん者5人と天理高第2部のきしん生7人の計12人が所属。勤務者・ひのきしん者のうち4人は、天理高第2部生として同班へ配属され、卒業後も勤務している。主任の長谷川剛さん（40歳・西六之宮分教会教人）も、その一人。木製スタンドは、長谷川さんの指示のもと、主に天理高第2部の生徒たちが手作りしたという。

長谷川さんは「2部生時代に、『おちばと教会につながる』を信条とする『親方』の背中を夢中で追いかけた。憧れの人のつとめ方を私なりに若い世代へ伝えることが、おちばで育てていただいたことへの恩返しだと思っている。親元へ戻ったときに、進んで教会の御用に役立つ人材を一人でも多く育てていきたい」と話す。

利用者の目線に立つて

一方、大工班に隣接して事務所と工場を構える同課木工班は、主に神殿、教祖殿、祖霊殿に関わる木工事や、八足などの神具を製作する。現在の班員は、勤務者・ひのきしん者7人と天理高第2部ひのきしん生7人の計14人。

殿内用の木製いすは、5年前に同班が製作。主任の松田博次さん（41歳・弘明理分教会教人）は、利用者の目線に立つて工夫したという。

ページを基調とするオリジナルのいすは、座席部にスポンジを挟んで合成皮革で覆い、ほどよいクッション性

を持たせた。年配の利用者を想定し、座面高は35センチと低めに設計。持ち運びがしやすいように軽量化も図った。

また、神殿基壇の下足場に設置された木製いすも同班が手掛けた。座席部分には防水性のある素材を使用し、いすの両側に、立ち上がりを補助する持ち手と杖置きを備えている。

松田さんは「班員が普段から意見交換をして、自主的に取り組むよう促している。勤務者と2部生が心をそろえて日々の御用につとめ、『真実のお供え』をさせていただこうと呼びかけている」と話した。



下記QRコードから、宮繕課大工班と木工班の作業などの様子を見ることができる



道友社

合併号のお知らせ

7月11日号と18日号を合併し、7月18日号として発行いたします。
7月11日号はお休みとなりますので、ご了承ください。

おやのことば

お月様が、こんなに明るくお照らし下されている。

『稿本天理教教祖伝』第三章「みちすがら」

おやのこころ

雨上がりの黄昏、仲夏の風情を求めて近くの青田道を散策しました。梅雨入りから1カ月余り。水無月の雨をたっぷり吸ったアジサイは、水を張った田に鮮やかな彩りを添えています。稲の苗は一日と草丈を伸ばし、涼やかな風にさわさわと揺れています。

水路から流れ込む水の音は、心まで洗ってくれるように清らかです。山の稜線に沈む夕陽を眺めながら、大きく深呼吸すると、自然の気が体中に染みわたるような感じがします。



大地で暮らす生き物たちの鳴き声が聞こえてきて、あつと言う間に大合唱になりました。意中の相手をデートに誘う「自然界の恋歌」にしばし聴き入っていると、さざ波が広がる水田に、淡い月影が映り込んできました。

「お月様が、こんなに明るくお照らし下されている」

空を見上げると、雲間から上弦の月が神々しく顔をのぞかせます。まるで生き物たちの「歌のステージ」を照らしているかのようです。月日・親神様の大きなご守護が織り成す幻想的な光景に、思わず息をのみました。

間もなく梅雨が明けそうです。雲一つない日は、天の川や流れ星が素敵な夜空を演出することでしょう。団扇を手に星空の散策に出かけるのも趣があります。今年の夏も猛暑が予想されますが、折々の風情を味わいながら過ごしたいものです。

（お）

新企画



OYASATO 風物詩

南礼拝場前を歩いてみると、子供たちの元気な声が聞こえてきた。東泉水プールで、天理幼稚園のプール遊びが始まるみたい。

「いち、に、さん、し……」。

園児たちは大きく体を曲げ伸ばしして、歓声とともに一斉



青空に大きく伸びをして

にプールに入っていく。無邪気にはしゃぐ笑顔。水面もキラキラ輝いている。

ふと、私はいつからこんなふうに無邪気に遊ばなくなったのかなと考えた。そもそも遊ぶって何だろう――。

語源を調べると、その昔、中国では「自然に身を任せ、何物にも囚われない心のゆとり」を「遊び」と言ったらしい。もしかすると、変化する日常に戸惑ったり、日々の生活に追われたりする大人にこそ、遊びが必要なのかもしれない。

腕を振り上げて大きく伸びをすると、綿菓子に似た真っ白な雲が青空に浮かんでいた。ここ数日の梅雨空がうそのように気持ちいい。今年こそ、新しい水着を買おうかな。

(K)

創立130周年記念祭

西宮大

西宮大教会（秋岡正直^{まさなお}会長・兵庫県西宮市）は5月30日、創立130周年記念祭を執り行った。

同大教会では、「教会創立の元をたずね 自らが勇み他を勇ませて 人のために尽くす喜びを広げよう」との活動方針とともに、部内教会が、それぞれに見合った具体的な活動目標を掲げて取り組んできた。

当日は、真柱様のメッセージを大教会世話人の西浦忠一^{ただかず}本部長が代読。おつとめの後、あいさつに立った秋岡会長は「お互い今日を吉祥に、次の『成人の塚』を目指して、西宮の全教信者家庭がいつまでも幸せであるように、真柱様から頂

戴したメッセージを治めて、しっかりと教会、おちばにつながり、共に陽気に勇んで成人の歩みを進めさせていこう」と呼びかけた。

なお、記念祭の参拝は部内教会長夫妻に限定。検温、マスク着用や手指消毒、密を避けるために参拝する場所を増やすなど、感染防止対策を徹底した。さらに、大教会での参拝が叶わない信者に向けて、記念祭の様子をライブ配信した。

（西宮大・秋岡社友）

別席取次人

立教184年6月20日お許しを頂かれました。

内統領室

木村秀之

視点

“科学の言葉”でにをいかけ

先ごろ出直された村上和雄・筑波大学名誉教授（本部直属典日分教会ようぼく）は、生命科学の分野で目覚ましい業績を挙げられた。

そのあらましは、本紙5月30日号の特別寄稿「科学の視点から教えを世界へ発信」執筆元（今中孝信・「憩の家」元副院長）に詳しいが、信仰

者としての視点からも、科学的知見を踏まえつつ論考を重ねられた。

たとえば遺伝子DNAには、

たった4種類の塩基配列の組み合わせによって膨大な量の情報が書き込まれている。この設計図に基づいて各細胞に機能が与えられ、それぞれが異なる働きをしながら有機的

に生命活動を維持している。

また、遺伝子操作によって、細胞の改良やコピーなどが可能となり、医学にも応用されつつある。ところが、最も単純な細胞である大腸菌一つ、いまだに科学の力ではゼロから作れない。

さらに、生物学的な死について、あらかじめ遺伝子に

“死のプログラム”が書き込まれている可能性があるという。「息を引きとる世話」もご守護と教えられる私たちお道の信仰者にとって、興味深い学説である。

こうした生命の精緻な営みはもとよりだが、その働きの仕組みを極微の空間に書き込んだ存在こそ、親神様にほかならないとして、その存在を「サムシング・グレート」（大なる何ものか）と名づけ、一般向けに説明されていた。

ご自身を「サムシング・グレート」のメッセンジャー」と称されたのは、科学の言葉を用いたにをいかけを意図しておられたからだと推察する。

教祖から教わったこの世の真実に、村上教授の生命観を踏まえた最新の科学がどこまで近づけるのか、将来が楽しみでもある。私たちは、それぞれの立場で教えを伝え、人間生活の目標である陽気ぐらしへと着実に向かいたいと思う。

（村）

母親の出直しに立ち会えなかった

回答者

平澤 勇一

磐城平大教会長
福島教区長

Q 昨年、実母が出直しました。風邪で入院したものの、軽症と聞かされていた。ところが容体が急変し、そのまま出直したのです。母の最期に立ち会えなかったことを、とても後悔しています。この悲しみを、どう乗り越えればいいのでしょうか。（40代女性）

A 愛しい人との別れは、誰もがつらく悲しいものです。母親の最期に立ち会えなかったのは、本当に残念で悔やまれることでしょう。

しかしながら、いつまでも悔やんだり悲しんだりしたら、それこそ亡き母親も悲しむばかり。いまのあなたの姿を心配していると思います。元気で過ごしてもらいたいと強く願っているはずです。まずは故人の祖霊様に、最期に

親孝行ができなかったことを素直にお詫び申し上げ、その分も、これから前向きに人生を歩みますと、心の中で唱えてみてください。祖霊様は、その気持ちをしっかりと受けとめ、あなたの今後の人生を見守ってくれます。

悲しい出直しの節を乗り越え、陽気ぐらしの人生を歩むことが、母親への孝行につながります。また困ったときは親神様、教祖、祖霊様のもとへ足を運ぶのが一番で

す。おちばや教会へ足を運んでください。心を込めておつとめを勤めれば、節を乗り越える力を頂けます。教友と会話を交わすことで、生きる喜びの種も見つかります。

ほかにも、生かされている感謝の気持ちを込めて、ひのきしんに励むのもいいでしょう。きっと、心が晴れやかになります。どうかこれからの人生、先に亡くなった方に喜んでもらえるよう、一步を踏み出してみてください。



東京五輪で `世界、に挑む ホッケー日本代表に天理勢23人

7月23日に開幕が予定されている東京オリンピック。先ごろ、ホッケー男子日本代表チーム「サムライジャパン」と女子日本代表チーム「さくらジャパン」の内定選手団が発表され、天理関係者から選手15人、スタッフ8人の計23人が代表入りした。

11日に行われたオンライン記者会見では、男子副キャプテンの三谷元騎選手が「天理大学の4年間で学んだことを生かして戦っていく。天理の絆を感じながら `一手一つ、に頑張りたい」と力強く語った。

一方、女子副キャプテンの永井友理選手は、妹の葉月選手、弟の祐真選手と、3きょうだい揃っての代表入りを果たした。

友理選手は「金メダルを目標に戦っていく。若い選手が自分のプレーができるようにサポートしたい。私にとって最後になるであろう五輪の舞台で、集大成の姿を見せたい」と意気込む。

会場は東京都・大井ホッケー競技場。男子の初戦は7月24日午前9時半からオーストラリアと、女子は25日午前11時45分から中国と対戦する予定だ。



ここでは、東京五輪の大舞台で `世界、に挑む選手15人を写真入りで紹介。併せて、天理ホッケーとオリンピックの歴史を振り返る。
(編集部調べ)

ホッケー女子日本代表チーム 「さくらジャパン」



FW 森 花音選手
● 25歳
● 天理大卒
● コカ・コーラレッドスパークス

FW 野村香奈選手
● 31歳
● 天理大卒
● 南都銀行SHOOTING STARS

DF 及川 葉選手
● 32歳
● 天理大卒
● 東京ヴェルディホッケーチーム

FW 永井友理選手
● 29歳
● 誠央分教会別席運び中
● ソニー H C BRAVIA Ladies

DF 松本夏波選手
● 25歳
● 天理大卒
● コカ・コーラレッドスパークス

MF 永井葉月選手
● 26歳
● 誠央分教会別席運び中
● ソニー H C BRAVIA Ladies

○スタッフ
女子強化本部長 大久保文義 (天理大卒・鯖江市鯖江中学校)
女子強化副部長 中村真理 (天理大卒・日本ホッケー協会)
コーチ シアンジョン・パトリック (天理大卒・山梨学院大学)
通訳 新井麻月 (天理大卒・三重県スポーツ協会)

DF 山田翔太選手
● 26歳
● 天理大卒
● 岐阜朝日クラブ

DF 膳棚大剛選手
● 28歳
● 天理大卒
● 天理大学ベアーズ

FW 田中健太選手
● 33歳
● 天理高卒
● HGC HC

MF 永井祐真選手
● 25歳
● 誠央分教会別席運び中
● 岐阜朝日クラブ

DF 霧下義貴選手
● 22歳
● 天理高、天理大卒
● LIEBE栃木

ホッケー男子日本代表チーム 「サムライジャパン」



MF 三谷元騎選手
● 30歳
● 天理大卒
● ヴェルコスタ福井

MF 田中海渡選手
● 25歳
● 天理高、天理大卒
● 表示灯フラウテルボツケーチーム

MF 落合大将選手
● 27歳
● 天理大卒
● LIEBE栃木

GK 吉川貴史選手
● 26歳
● 天理大卒
● 岐阜朝日クラブ

○スタンバイプレーヤー
MF 永吉拳選手 (21歳・天理高卒・天理大学)
FW 福田健太郎選手 (25歳・天理大卒・岐阜朝日クラブ)
○スタッフ
チームマネージャー兼総務広報担当 山堀貴彦 (天理大卒・聖泉大学)
コーチ 穴井善博 (天理大卒・天理大学)

天理ホッケー×オリンピックの歩み (略年譜)

- 1954年 天理大学ホッケー部男子発足
- 68年 メキシココンティンオリンピック (男子) に恩田昌史選手 (天理大教員・ホッケー部監督 (当時))、河村一夫選手 (天理大生 (当時))、長屋恭一選手 (同) 出場。13位
- 69年 天理高校ホッケー部男子発足
- 76年 天理高ホッケー部女子発足
- 77年 天理大ホッケー部女子発足
- 83年 恩田氏が女子ホッケー日本代表監督に初就任
- 85年 親里ホッケー場開場 (天理市)
- 2004年 ホッケー女子日本代表が初出場したアテネオリンピックに天理勢9人出場。8位
- 08年 恩田氏が監督を務めた `恩田ジャパン` (女子日本代表) が北京大会出場。天理勢13人。10位
- 12年 ロンドンオリンピック (女子) に天理勢7人出場。9位
- 16年 永井祐司監督 (天理高卒・誠央分教会ようぶく) 指揮のもと、女子日本代表がリオデジャネイロオリンピック出場。天理勢10人。10位

Reportage

ヒューマン

「けにはいかな」と思い、その人に声をかけた。補修のために必要なセメントや砂などを登山口から現場まで運ぶ作業を手伝い、自身も整備を心掛けるようになった。定年退職後も、体を大切に使用して、健康への感謝の思いから、山道の点検・整備のひのきしんを本格的に始めた。

そんななか、病気で肺の片方を摘出した人や、脳梗塞で1年間、車いす生活を送った人と出会った。身土者がりハビリを兼ねて懸命に



高御位山の頂の岩場から景観を望む長谷川さん。道具の入った籠を背負い、山道の点検・整備をしながら毎日登っている

QRコードから、長谷川さんが山道の点検・整備をする様子をご覧ください。

さんぽ

76歳 毎日「山歩」で
ご守護味わう



兵庫県加古川市と高砂市の境に位置する標高304mの低山「高御位山」。この山に毎日登り、山道の点検・整備を続けている長谷川英樹さん（76歳・志方分教会ようぼく・加古川市）は、加古川市と連携して登山者向けのガイドスタッフなども務めている。長年にわたり山道整備のひのきしんに勤しみ、多くの登山者の安全を見守ってきた「高御位山の達人」の思いとは――。



山道整備のひのきしんを続け
「体を大切に使う喜び」伝えて

「今日も目が覚めて新たなスタートが切れる。有り難いなあ」
長谷川さんは毎朝、自宅で朝づとめを勤めて親神様・教祖に日々のご守護へのお礼と感謝を申し上げる。その後、すぐに作業着に着替えて山へ向かう。
「播磨富士」と称される高御位山。山頂から明石海峡大橋や淡路島などを見渡すことができ、その眺望の素晴らしさから多くの登山者が連日訪れる。さまざまな登山コースがあり、老若男女を問わず登りやすいハイキングエリアだ。

早朝の澄んだ空気のなか、長谷川さんは山道に欠損箇所がないか点検しながら歩く。登山者の多くが登頂に約1時間かかるところを40分で到着すると、山頂に設置されているバイオトイレが正常に稼働しているか点検し、清掃する。これまで大病を患ったことはない。「私にとって、山を歩くとき、山歩」と歩荷が健康の秘訣。親神様からお借りしている体を大切に使用していただくために、山に登っている」と。

健康への感謝の思いで

幼少のころは体が弱く、寝込みがちだった。父親と共に所属教会の月次祭に参拝した際、西村信一

・志方分教会2代会長や夫人のまさみさんからおさづけを取り次いでもらった。まさみさんから「かしまの・かりものの教え」を説かれ、「体を大切に使用していただくように」と仕込まれた。
その後、高校でマラソンを始め、走ることへのめり込んだ。就職してから市民ランナーとして大会に出場。その間に、トレーニングの一環で自宅近くの高御位山に登るようになった。
「マラソンに取り組む中で、だん



登山者の安全のため、新たにセメントで階段を作る

だん体が強くなり、寝込むこともなくなった。健康でいられることを実感し、その有り難さを人一倍味わってきた。
昭和60年、自治体によって高御位山の山道が整備され、階段が設置された。以来、多くの登山者が訪れるようになる。
こうしたなか、長谷川さんがトレーニングで山を訪れたある日、階段の崩れた部分を補修する高齢の登山者と出会った。ほかの人が歩きやすいようにと、自主的に山道を整備する姿を見て、「近くに住んでいる自分が何もしないわ、

ひのきしんに動かしむ中で、「滑り止めを作ってもらったおかげで登りやすくなった」という登山者の声を耳にするようになった。
こうした活動が一般に認知され、加古川市と連携して登山マップの作成に携わったほか、登山者向けのガイドスタッフも務めるようにいつしか「高御位山の達人」と称されるようになり、『神戸新聞』や市のホームページで取り上げられた。

午後1時、この日4回目の山の点検に向かう長谷川さんは、シャベルの入った籠を背負って山道へ。目線を下げて階段を一つひとつ確認しながら、足取り軽く進んでいる。道中、脇の草むらに咲いているササユリを見つけると、イノシシに荒らされないよう垣を作った。「ひのきしんができるのは、健康な体をこ守護いただいているからこそ。高御位山を訪れた人たちが存分に体を動かせる喜びを感じ、山でのひと時を満喫できるよう、これからも体が動く限り、ひのきしんを続けていきたい」

文・動画Ⅱ加見理一
写真Ⅱ中野理弘

訃報

- 佐藤初枝さん（95歳・大垣大・横澤郷分教会前会長）5月16日出直された。秋田教区。
- 平井 緑さん（94歳・高岡大・ハインアール教会前会長夫人）5月16日出直された。大教会婦人役員を務めた。アメリカ伝道庁。
- 篠田修司さん（77歳・周東大・周南分教会長）5月16日出直された。大教会役員、鼓ヶ浦分

日本史
コンシェルジュ

白駒妃登美
Shirakoma Hitomi

「国民に罪を
犯させない」



その発端は、まだ明治維新が起る前のこと。西郷は薩摩藩主の父・島津久光との間に確執があり、沖永良部島へ島流しに遭いました。

2013年9月、プエノスアイレスで開かれたIOC総会。五輪招致レースの最終プレゼンで、滝川クリステルさんのスピーチは世界に驚きを与えました。日本では「おもてなし」のフレーズが話題になりましたが、実は彼女のスピーチは、こうしたのです。
「もし皆様が東京で何かをなくしたならば、ほぼ確実にそれは戻ってきます。たとえ現金でも。実際に昨年、現金3千万円以上が、落とし物として東京の警察署に届けられました」

この数字に、世界は度肝を抜かれたのです。それは同時に、日本人の道徳心の高さ、そして国民と警察の信頼関係を世界が再認識した瞬間でもありました。
現代につながる日本の警察制度の礎を築いたのは川路利良です。薩摩藩の下級武士として薩英戦争や戊辰戦争を戦い、その能力を西郷隆盛から高く評価されます。

明治6年、ヨーロッパの警察制度の視察から帰国した川路は東京警視庁を創設し、「民衆のための警察」という理想を実現するために邁進しました。
その後、西郷が西南戦争で亡くなり、二人の関係は途絶えたかに見えました。しかし不思議な縁で、二人の人生は再び重なり合うので

なりました。東京五輪が、この誇れる日本の国柄を世界に発信できる場となりますように。

妻の出産に心を定めて

諸岡知徳（31歳・三重県四日市市）

3年前、妊娠中の妻が「前置胎盤」と診断された。胎盤が通常よりも低い位置にあり、出産時に母子ともに命を落とす危険があった。そんななか、出産予定日が青年会総会の当日であることが分かった。直属分会の委員を務めていたことから、どちらを優先すべきか悩んだ。

そこで会長さんに相談すると、「心定めをすれば、神様が必ず導いてくださる」と、温かい言葉をかけてくださった。その励ましが心に響き、神様にもたれて、おちばへ帰ることを決意した。

その後、妻は予定よりも早く産気づき、総会の前日に出産。おかげで、傍らに寄り添うことができた。親神様のご守護を心から実感し、翌日おちばへ帰った際には、真っ先に親神様・教祖に御礼申し上げた。



娘は順調に育ち、3歳を迎える。これからも、節からお導きくださった親神様への感謝の気持ちを忘れずに、日々を送りたい。

- 教会長（2代）、教区主事、天理教里親連盟副委員長を務めた。山口教区。
- 杉田忠義さん（83歳・越乃國大・北ノ荘分教会前会長）5月17日出直された。本部詰員、大教会役員、教区主事、福井支部長を務めた。福井教区。
- 岩倉次江さん（91歳・宇佐大・恒見分教会長）5月18日出直された。福岡教区。
- 御木光枝さん（94歳・東本大・本神王分教会3代会長夫人）5月

- 5月19日出直された。東京教区。
- 江川勝久さん（90歳・山名大・遠陽分教会長）5月19日出直された。静岡教区。
- 大橋洋志さん（62歳・本芝大・本界光分教会長夫君）5月20日出直された。神奈川教区。
- 明石正道さん（96歳・京城大・大和区分教会前会長）5月22日出直された。教区主事、桑員支部長を務めた。三重教区。
- 杉本佐知子さん（66歳・北大・祖浪分教会前会長夫人）5月

- 23日出直された。婦人会北支部委員を務めた。大阪教区。
- 篠原 孝さん（73歳・山名大・吉原分教会長）5月25日出直された。富士支部長を務めた。静岡教区。
- 島田トヨ子さん（89歳・河原町大・鳥羽谷分教会3代会長夫人）5月26日出直された。福井教区。
- 榎 博志さん（72歳・双名島大・白梅分教会長）5月26日出直された。香川教区。

令和4年度

一れつ会扶育生

志願案内

○扶育願書受付期間
10月1日(金)～31日(日)

○扶育願書提出先
・保護者が現在居住する各都道府県の教務支庁
・教会本部および信者詰所の勤務者子弟子女は、一れつ会事務所

※詳細は右記QRコードまたは一れつ会ホームページへ

○問い合わせ
〒632-8679 天理市守目堂町213-4 おやさとやかた真南樓3階
一般財団法人天理教一れつ会 扶育願書係
☎0743-63-2497 Eメール=ichiretsukai@tenrikyo.or.jp

ラジオ「天理教の時間」

毎週土曜が日曜の早朝放送

テーマ

7月の放送予定

▶7月3日・4日
第1133回「子供は誰もが天才」

▶7月10日・11日
第1134回「夏になるとのこと」

▶7月17日・18日
第1135回「神様からの贈り物」

▶7月24日・25日
第1136回「母ごころ」

▶7月31日・8月1日
第1137回「生きることは、食べること」

☆「家族のハーモニー」
第4回「異国で出会った少女」は7月10日・11日放送

☆過去の放送分は天理教ホームページ「ラジオ「天理教の時間」」でお聴きいただけます。

Tenri Sports

[天理スポーツ]

近畿大会連覇
日本一めざす

天理高軟式野球部

天理高校軟式野球部は13日、京都府綾部市のあやべ球場で行われた「春季近畿地区高校軟式野球大会」決勝で飾磨工業高校（兵庫）と対戦。1 - 0 で勝利し、昨秋の近畿大会に続く2連覇を成し遂げた（写真上）。

全国制覇を目標に掲げる同部。冬季はウエートトレーニングで体を強くするとともに、基礎練習に注力した。

特に打撃面では、毎日1千回の素振りや、さまざまな球種への対応を強化する練習に取り組んだ。

木田準也監督（39歳）は「コロナ禍の影響で例年よりも他校との練習試合が少なかった分、時間をかけて攻撃面の強化を図ることができた」と話す。

一方、守備面では、試合中のさまざまなケースを想定したノックなど、実戦形式の練習で底上げを図った。

投手陣は、1年時の秋から公式戦のマウンドに立つエース・西山大智投手（3年）が引っ張る。さらに、コントロールが安定しなかった浅野隆乃介投手（同）はサイドスローへと投球フォームを変更。持ち前のスピードを維持したまま安定した投球ができるようになり、横山一彦投手（同）と共にブル



ペンに控える。

5月2日から4日にかけて行われた「春季近畿地区高校軟式野球大会奈良県予選」では、全試合で大差をつけて勝利。近畿大会へ進んだ。

迎えた同大会。初戦で浪速高校（大阪2位）に6 - 0、準決勝で東山高校（京都1位）に11 - 1と快勝し、決勝戦へ。

決勝では、準決勝で比叡山高校（滋賀）に3 - 2と競り勝った飾磨工業高と対戦した。

後攻の天理高の先発は横山投手。球の出どころが見えにくい投球フォームで相手打者を翻弄し、無失点に抑えていく。

一方、天理打線も相手投手を打ち崩せず、スコアボードにゼロが並ぶ堅いゲーム展開のなか、

六回裏、三番の岩井真斗選手（同）の左中間への強い打球がランニングホームランとなり、1点先制（写真左下）。その後、井久保漱介選手（同）がスリーベースヒットを放ったものの、追加点を奪えなかった。

八回表、浅野投手がマウンドに立つと、最終回まで相手打線を抑えてゲームセット。1 - 0と僅差のゲームを勝ちきり、同大会11度目の優勝を果たした。

石井育郎キャプテン（同）は「全国制覇に向けて負けられない試合だったので、優勝できたことでチームに勢いがついたと思う。夏の全国大会に向けて、攻撃面をさらに強化し、チーム一丸となって、あと1点を取る力をつけたい」と話した。

文芸連載小説

作／片山恭一

ふたり
星の降る夜は

第27話 宇宙の神秘に誘われ

一学期の最後の日、学級担任は子どもたちに通知表を配り、夏休み中の諸注意を与える。いつもカンのことをかばってくれる若い男の先生だった。専門科目は理科で、とくに宇宙や星のことに興味があるらしい。その先生が島と陸がつながる話をはじめた。

月が地球を引っ張る力と、地球が回転することで生まれる外側に引っ張られる力、この二つの力が合わさって、海面が盛り上がったところと、へこんだところができる。つまり潮の満ち干が生まれる。それ以外にも月と太陽の方向によって、一日のあいだで海がうんと盛り

上がったたり、うんとへこんだりする。これを大潮と呼んでいる。しかし大潮では島はつながらない。もっといろんな条件が加わらないと、歩いて渡れるところまで潮は引かない。

「宇宙の神秘と言うべき不思議なことが、夏休みのあいだに起こりそうです。この機会に、先生はいろんなことを調べてみようと思います。みなさんも島が陸とつながっていく様子を観察して、夏休みの自由研究にしてはどうでしょう」

カンは町の図書館へ行って潮の満ち干について調べた。満潮と干潮は一日に二回ずつあるらしい。その間隔はほぼ十二時間二十五分である。満潮が朝の八時から、二回目は夜の八時二十五分になる。また干満の時刻は毎日五十分ずつ遅れていく。これは大変なことになった、とわ

画／リン

前話のあらすじ カンは毎日浜辺に出て、一生に一つだけ願いを叶えてくれる神社がある島を眺めていた。ツツたちが遭遇するであろう惨劇を予感し、なんとか回避したいという思いからだった。

も海を見張っていなければならぬ。

一日に何度も砂浜へ出かけて海の様子を観察した。とくに注意したのは潮が引きはじめるときだ。いちばん大きく潮が引いたときに現れる砂浜の位置を、カンは注意深く観察して頭のなかに記録した。日を追うにつれて、潮の引き方は少しずつ大きくなっていった。やがて潮が引ききったときには、砂浜と島のあいだに砂や小石が現れるようになった。観察をはじめて十日ほどすると、海のなかにいくつもの砂地が顔を出した。しかし島と陸がつながるところまでいかない。宇宙の神秘はなお姿を隠したままだった。



少し高いところへ登れば、海の様子がもう少しはっきり観察できるかもしれない。潮が引ききる時間帯を見計らって、わたしたちは山裾の棚田へ行ってみることにした。暑い日の午後で、ほとんどの生き物は昼寝をしている。目を覚ましてるのは、大声で鳴きたてるセミくらいだ。

棚田が雑木林に変わるあたりから、町と砂浜と海が一望できた。目差しをいっぱいに浴びた海は空っぽで、島は生き物たちと同じようにまどろんでいる。陸地に向いたほうに堆積した砂が、鳥の嘴のように白くとがりはじめていた。

その先に細い一本の道が見えた。いまはまだ水のなかに身を潜めているが、いつ海面に現れてもおかしくない状態になっている。宇宙の神秘が姿を現そうとしているのだ。

